教科：地理歷史　科目：世界史Ｂ　　別紙１

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| (1)<br>世界史への扉 | 自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。 | |
| | ア　自然環境と人類のかかわり<br>自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。 | ・人類は、自然環境の制約を受けると同時に、自然環境に積極的に働きかけ、適応すべき諸手段を開発してきたことを理解し、世界史学習における地理的視点の重要性に気付く。 |
| | イ　日本の歴史と世界の歴史のつながり<br>日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。 | ・日本と世界の諸地域の間に、相互の接触・交流の結果もたらされた多くの歴史的事例があることを理解し、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付く。 |
| | ウ　日常生活にみる世界の歴史<br>日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。 | ・世界の人々の身近に存在し、日常的に利用したり、習慣化したりしている事柄について、その起源や変遷などを理解し、日常生活から世界の歴史がとらえられることに気付く。 |
| (2)<br>諸地域世界の形成 | 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。 | |
| | ア　西アジア世界・地中海世界<br>西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。 | [西アジアの地理的特質とオリエント文明]<br>・西アジアの大半が乾燥地帯であり、大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑 かんがい 農業が展開し、オリエン ト文明が生まれたことを知る。<br>・六十進法や暦など現代まで影響を与えているものがオリエント文明で生まれていたことを知る。<br><br>[イラン人の活動]<br>・アケメネス朝がオリエント世界を統一し、広域交通路を整備して諸民族の交流を促したことを知る。 |

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| | | ・ササン朝がイラン文明を広く東西につたえたことを知る。<br><br>[地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマ文明]<br>・地中海一帯が温暖で冬季は降雨があるが、夏季は乾燥した気候であり、地中海を利用した交易が発達していたことを知る。<br>・オリエント文明の影響を受けてエーゲ文明が形成されたこと、ポリスを中心とするギリシア文明が形成されたことを知る。<br>・重装歩兵として国防において大きな役割を果たすようになった平民の発言力が増し、アテネにおいて民主政が成立していったことを知る。<br>・ギリシア文明がアレクサンドロスの遠征で西アジア一帯に伝えられたことを知る。<br>・都市国家から出発したローマが地中海の周辺地域を 征服し、大帝国を建設したことを知る。<br>・キリスト教の成立と展開を知る。<br><br>[南アジアの地理的特質]<br>多様な自然条件にある南アジアが、モンスーンの影響を受ける点で共通性をもっており、降水量の多少に応じた農耕が展開されて多様な農産物が作られてきたことを知る。<br>[インダス文明]<br>・モエンジョ=ダーロとハラッパー遺跡から、インダス文明が明確な都市計画に基づいて建設された都市文明であったことを知る。<br>[アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展]<br>・南アジアに侵入したアーリヤ人が定住して諸国家を形成し、やがてマウリヤ朝やグプタ朝などの帝国を樹立したことと、デカン高原に非アーリヤ人王朝が成立し、南アジア北部の文明を受け入れつつ、海上 交易に活躍したことを知る。<br>・バラモン教がヴァルナ制度と結び付き、後のカースト制度の枠組みとなったことを知るとともに、ヒンドゥー教とカースト制度が南アジア世界に統一性をあたえていたことを知る。 |
| | イ　南アジア世界・東南アジア世界<br>南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。 | |

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| | ウ　東アジア世界・内陸アジア世界<br>東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。 | ・仏教の成立と諸地域への伝播 ぱ を知るとともに、南アジアの仏教がヒンドゥー教に吸収されて衰退していったことを知る。<br>[東南アジアの地理的特質と国家形成]<br>・東南アジアが半島部と島嶼 しょ 部からなり、モンスーンの影響を受ける中で海路などを利用した交易活動を 盛んに展開してきたことを知る。<br>・東南アジアの諸民族が、南アジア文明や中華文明の影響を受けながら、海上交易の拡大に伴って港市を 形成し国家を誕生させたことを知る。<br><br>[東アジアの地理的特質]<br>・東アジアが主にモンスーン気候地帯に属し、農耕を中心とした生業が営まれてきたことを知る。<br><br>[中華文明の起源と秦・漢帝国]<br>・黄河･長江流域の新石器文化や殷・周の成立、漢字の起源を知る。<br>・春秋戦国時代の経済や文化の発展について知る。<br>・秦・漢帝国の成立と統治体制の特質、周辺諸国との冊封体制について知る。<br><br>[内陸アジアの地理的特質と遊牧国家の動向]<br>・内陸アジアの大半が乾燥地帯であり、草原とオアシスで活動する遊牧民とオアシス民とが共存･共生の関係にあったことを知る。<br>・匈奴について、文化や軍事力を知るとともに、オア シス都市の覇権をめぐり漢と長期の抗争を続けたことを知る。<br>・遊牧民の華北進出と華北住民の江南への移住を知るとともに、遊牧民の定住化や均田制などの新しい傾向が見られたことを知る。<br><br>[唐帝国と東アジア諸民族の活動] ・遊牧民と漢人の融合、内陸アジアでの遊牧国家突厥の成立などを背景に、中国で隋･唐帝国が成立したことを知る。<br><br>・唐が支配体制を整え、周辺諸国との間に安定した関係を結び、東アジア世界と内陸アジア世界を含む政治的秩序を形成したことを知る。 |

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　別紙１

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| | | ・日本や新羅、渤海が唐の政治制度や文化を取り入れることで国家体制の整備を進めたことを知る。<br>・設定した主題について、年表や模式図にまとめ、歴史的事象の前後関係を把握して、因果関係を明らかにすることができる。 |
| | エ　時間軸からみる諸地域世界<br>主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。 | |
| (3)<br>諸地域世界の交流と再編 | ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。<br><br>ア　イスラーム世界の形成と拡大<br>アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。<br>イ　ヨーロッパ世界の形成と展開<br>ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。 | [アラブ人とイスラーム帝国の発展]<br>・7 世紀の西アジアの情勢とムハンマドの活動から、イスラーム成立の背景と特質を知る。<br>・カリフの指導下におけるウマイヤ朝、アッバース朝それぞれの支配地域を確認するとともに、アッバース朝でイスラーム法に基づく国家体制が確立し、ムスリム商人を中心とした交易活動が活発化したことを知る。<br>・9 世紀以降、アッバース朝の政治的衰退に伴ってイスラーム帝国の統一性が失われる中、アラビア語によるコーランの読誦と、経済・文化による交流がムスリムの連携を維持させたことを知る。<br>[トルコ系民族の活動]<br>・トルコ系民族が内陸アジアから西アジア・南アジア北部に進出したことを知る。 |
| | ウ　内陸アジアの動向と諸地域世界<br>内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。 | [アフリカ・南アジアのイスラーム化]<br>・ムスリム商人とスーフィー教団により、東西アフリカや、南アジア・東南アジアのイスラーム化が進んだことを知る。<br><br>[イスラーム文明] |
| | エ　空間軸からみる諸地域世界<br>同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を | ・イスラーム文明は、古代の西アジア文明の上に、成立していることを知る。<br>[西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向] |

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　別紙１

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| | 空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。 | ・オスマン・ムガルのイスラーム諸帝国は、皇帝権と官僚制を発達させる一方で、非ムスリムには柔軟な統治を行ったことを知る。 |
| | アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。 | ・東南アジア島嶼部における 16 世紀の香辛料貿易と、17 世紀後半以降のヨーロッパの支配の進行、大陸部の農業国家の中国や琉球などとの交易について知る。<br>[明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係]<br>・明の朝貢（＝冊封）体制と、北虜南倭への対応を知る。 |
| | ア　アジア諸地域の繁栄と日本<br>西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16 世紀から 18 世紀までのアジア諸地域の特質とその中での日本の位置付けを理解させる。 | ・16 世紀以降、交易の利権をめぐる抗争の中で女真による清帝国の建設と、日本の朝鮮出兵があったことを知る。 |
| | イ　ヨーロッパの拡大と大西洋世界<br>ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。 | [ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立]<br>・ルネサンスが人間性の解放を求め、個性を尊重しようとする文化運動で、イタリアからヨーロッパ各地に広がったことを知る。<br>・カトリック教会を批判する宗教改革の運動が、ドイツからヨーロッパ各地に広がったことを知る。<br>・17 世紀には、主権国家体制が形成され、オランダ・イギリス・フランスなどの国々が有力となったことを知る。<br>[世界各地への進出と大西洋世界の形成]<br>・15 世紀後半以降のアジア・アメリカ・アフリカに対するヨーロッパの対外進出とその影響について知る。<br>・17・18 世紀に、オランダ・イギリス・フランスなどが世界の諸地域に進出し、重商主義に基づく経済活動と植民地争奪戦争を展開したことを知る。<br>・ヨーロッパ、西アフリカ、アメリカを結ぶ三角貿易が発達し、西ヨーロッパを中心とする大陸間分業体制が確立したことを知る。<br>[17～18 世紀のヨーロッパ文化] |

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　別紙１

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| (4)<br>諸地域世界の結合と変容 | ウ　産業社会と国民国家の形成<br>産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。<br><br>エ　世界市場の形成と日本<br>世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、 | ・合理主義、経験主義を背景とした科学革命、主権国家体制を背景とした国際法、貴族社会を背景としたバロックやロココの芸術などについて知る。<br>[産業革命]<br>・イギリス産業革命における世界的な背景や繊維部門の技術革新、交通革命、産業資本主義の確立を知るとともに、労働運動や社会主義思想が生まれたことを知る。<br>[フランス革命、アメリカ諸国の独立]<br>・18 世紀における経済的変化や啓蒙思想を背景に、アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながら起こり、その結果として西ヨーロッパとアメリカ合衆国に近代民主主義社会の基礎が成立したことを知る。<br><br>[19 世紀のヨーロッパ･アメリカの経済的、政治的変革]<br>・ウィーン体制下で自由主義・国民主義運動が拡大し、イタリアやドイツでは国民国家の形成が促されたが、ロシアやオーストリアでは、皇帝主導の近代的改革に限界があったことを知る。<br><br>・アメリカ南北戦争と、その後の奴隷制、人種・民族問題と、ラテンアメリカ諸国の状況を知る。<br><br>[世界市場の形成とヨーロッパ諸国のアジア進出]<br>・イギリス自由貿易と、保護貿易国が対抗して市場の拡大を目指し諸地域に進出した結果アジア諸国は伝統的な手工業や農村経済が打撃を受け、国際的分業体制に組み込まれていったことを知る。<br>[オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革]<br>・オスマン帝国が国内の民族･宗教的対立とヨーロッパ諸国の干渉で衰退していったことと一時的な改革が行われたことを知る。<br>・インドでは、イギリスによる植民地化が進み、インド大反乱後にムガル帝国が滅亡し、イギリス支配下でインド帝国が成立したことを知る。<br>・東南アジアではオランダ･イギリス･フランスによ |

教科：地理歷史　科目：世界史Ｂ　　別紙１

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| | オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19 世紀のアジアの特質とその中での日本の位置付けを理解させる。 | る植民地化が進み、タイのみが独立を維持していたことを知る。<br>・中国においては、イギリスを先頭とするヨーロッパ 諸国の進出が強まり、アヘン戦争･アロー戦争などを通じて半植民地化が進行する中で、太平天国のような民族運動や洋務運動のような近代化運動が起きたことを知る。<br>・日本が、開国後明治維新を経て、ヨーロッパ文明の導入と近代化を進めたことを知る。<br>・設定した主題にかかわる文字資料や、絵画、風刺画、写真などの図像資料を取り上げ、内容、意図、狙いなどについて考察し、その時代の人々が自分たちの時代や社会をどうとらえ、どう表現しようとしたかを理解することができる。 |
| | オ　資料からよみとく歴史の世界<br>主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。 | |
| | 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21 世紀の世界について展望させる。<br>ア　帝国主義と社会の変容<br>科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19 世紀後期から 20 世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。 | [科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展]<br>・19 世紀後期の科学技術の発達が、欧米諸国で第二次産業革命の進展を促し、企業による寡占化と資本の集中･集積が進んだことを知る。<br>[帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応]<br>・欧米諸国が工業製品や資本の輸出先を求めて、世界各地に進出し、植民地や勢力圏の獲得競争を展開したことを知る。<br>・欧米諸国の支配を受けたアジア・アフリカで民族 |

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　別紙１

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| | | 意識が覚醒し、マフディー派の抵抗、義和団、インド国民会議派の運動など、ナショナリズムの運動が起こったことを知る。<br>・日本では日清戦争、日露戦争を経て近代産業が成立し、大陸進出が開始されたことを知る。 台湾・琉球の歴史を知る。<br><br>[国際的な移民の増加]<br>・19 世紀後半、ヨーロッパからアメリカやオセアニアへの大規模な移住が見られたことや、中国や南アジアなどから移民労働者が大量に世界の労働力市場に供給されたことを知る。<br><br>[第一次世界大戦]<br>・第一次世界大戦の勃発に至る経緯を知るとともに、第一次世界大戦が総力戦としての性格をもっていたことを知る。<br>[ロシア革命とソヴィエト連邦の成立]<br>・ロシア革命の過程と、それによって成立したソヴィエト連邦が世界に与えた影響について知る。<br><br>[大衆社会の出現とファシズム]<br>・大戦後に国際連盟やヴェルサイユ･ワシントン体制が成立し、大戦前と国際秩序が変化したことを知る。<br>・戦間期において、アメリカ合衆国が国際的影響力を急速に増し、その大量生産･大量消費の生活様式が欧米諸国や日本に波及し、大衆社会が出現したことを知る。<br>・大衆の政治参加がイタリア・ドイツでファシズムを生むなど、当時の国家や社会、文化に大きな影響を与えたことや同時期に日本の軍部の台頭やソヴィエト連邦におけるスターリンの独裁が生じたことを知る。<br><br>[第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢]<br>・第一次世界大戦後に、中国での五･四運動、インドでのガンディーや国民会議派による運動、トル |
| | イ　二つの世界大戦と大衆社会の出現<br>総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20 世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。 | |

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　別紙１

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| | | コでのトルコ革命など大衆的基盤をもつ民族 運動が発生したことを知る。<br>[世界恐慌とその後の世界情勢]<br>・世界恐慌が資本主義諸国に深刻な打撃を与え、 アメリカ合衆国のニューディール政策やイギリスのブロック経済政策など、各国で様々な恐慌対策がとられたことを知る。<br>・世界恐慌の深刻な影響を受けた日本･ドイツ･イタリアが満州事変や日中戦争、ラインラント進駐、エチオピア侵攻を起こしたことを知る。<br>・世界恐慌の中で、ソヴィエト連邦が五カ年計画の下、工業生産を増大させていったことを知る。<br>[第二次世界大戦]<br>・第二次世界大戦について、ヨーロッパの戦争から始まり、太平洋地域に戦争が拡大し、戦場が広 域化していった過程、核兵器がもたらした甚大な 被害、戦争の様相が多数の民間人を含む膨大な犠 牲をもたらしたことを知る。 |
| | ウ　米ソ冷戦と第三世界<br>米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から 1960 年代までの世界の動向について考察させる。 | [米ソ両陣営による冷戦の展開]<br>・国際連盟に代わり国際連合が結成され、また敗戦国の処理が進められる中で戦後の世界秩序が形成されていったことを知る。<br>・第二次世界大戦後、東欧諸国に社会主義政権が誕生しソヴィエト連邦の影響力が拡大したのに対し、アメリカ合衆国が西欧諸国への経済援助を強化して「対ソ封じ込め」を図ったことを知る。<br>・米ソ両国が核兵器の力を背景にそれぞれ経済協力と集団安全保障の体制を樹立して自陣営の強化を図る中で、対立関係が非ヨーロッパ世界に も拡大し、朝鮮戦争など様々な紛争を引き起こしたことを知る。<br>[戦後の復興と経済発展]<br>・西欧諸国や日本で、アメリカ合衆国の支援と安定した国際貿易体制に支えられ経済復興を成し遂げたことや、その後西ドイツと日本では高い経済成長が見られたことを知る。 |

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　別紙１

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| (5)<br>地球世界の到来 | | [アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題]<br>・第二次世界大戦後、民族独立運動がアジアからアフリカへと段階的に波及し、1960 年代には植民地の大半が独立を達成したことを知る。<br>・アジア・アフリカ諸国が国際社会において第三世界として発言力を増すとともに、平和共存を模索し、植民地支配の終焉に大きな役割を果たしたことを知る。<br>・アジア・アフリカ諸国の経済的自立は容易ではなく、先進諸国との経済格差が拡大し、南北問題として認識されるようになったことを知る。<br>[平和共存の模索]<br>・ヴェトナム戦争などでアメリカ合衆国の経済状況が悪化する中、EC 諸国や日本の経済が急成長し、また中ソ対立の深刻化やチェコスロヴァキアの改革に対するソヴィエト連邦などの軍事介入により、両陣営内での米ソの指導力にかげりが見え始め、国際政治は多極化に向かったことを知る。 |
| | エ　グローバル化した世界と日本<br>市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970 年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。 | [市場経済のグローバル化とアジア経済の成長]<br>・1970 年代に入り、アメリカ合衆国主導の国際通貨体制が瓦解して変動相場制に移行し、二度の石油危機が欧米諸国や日本に大きな打撃を与えたことを知る。<br>・1980 年代以降、先進工業国が産業構造を転換し、途上国への工場移転を図る一方で、中国やアジアの新興工業地域が欧米諸国や日本から技術や資本を導入して輸出志向の工業化に乗り出し、急成長を遂げたことを知る。<br>[冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体]<br>・社会主義計画経済の立ち遅れが明らかになり、東欧やアジアの社会主義国でも経済開放政策が採用され、市場経済の世界化が一層進んだことを知る。<br>・ソヴィエト連邦では経済の行き詰まりを立て直すためペレストロイカを行ったが、経済状況は改善せず、むしろ東欧諸国の改革に拍車がかかり、 |

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　別紙１

| 学習指導要領 | | 都立千歳丘高校　学力スタンダード |
|---|---|---|
| | オ　資料を活用して探究する地球世界の課題<br>　地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。 | 1980 年代末には東欧諸国でも社会主義体制が崩壊し、冷戦が終結するとともに、ソヴィエト連邦が解体されたことを知る。<br>[地域統合の進展]<br>・冷戦終結後の国際経済の連携の動きの中で、EU や ASEAN など地域統合や地域協力を目指す動きが世界各地で進行していることを知る<br><br>[地球的諸課題をめぐる問題]<br>・冷戦終結後に激化した旧ユーゴスラヴィア内戦、アフリカのソマリア内戦や、第二次世界大戦直後から続いているパレスチナ紛争などの地域紛争が世界各地で頻発していることを知る。 ・地球の温暖化や大気汚染、森林の消滅などの環境 や資源・エネルギー問題が地球世界の切実な課題 であることを知る。<br>・地球世界の課題に関して設定した主題について、資料を用いて探求し、これからの世界と日本の在り方 や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の 実現について展望することができる。 |